なんかいプラス

medical care information

vol.1
2018.2

外来診療予定表

● **受付時間〈 8：00 ～ 11：00 〉まで**（予約されている方は除く）　　平成30年2月

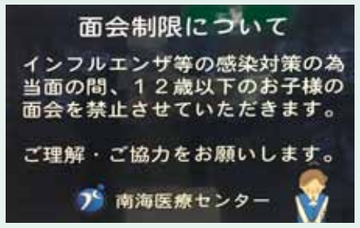
科　名	担　当	月	火	水	木	金
整形外科	新　患	隈	宮　崎	休　診	隈	隈
	再　来	隈	宮崎・隈		隈	隈
泌尿器科	新患・再来	平　田 菅	平　田 髙　橋	平　田 菅	平　田 髙　橋	休　診
心臓外科	新患・再来	岩　田	休　診 (手術日)	岩　田	岩　田	休　診
耳鼻科	新患・再来	門　脇	門　脇	門　脇	休　診	門　脇
	アレルギー			(14:30)		
脳外科	新患・再来	森　重	休　診	休　診	肥　川（第1） 久　保（第2） 森　重（第3・5） 武　田（第4）	休　診
皮膚科	新患・再来			大分大学		
形成外科	新患・再来		大分大学			
放射線科	予約検査のみ					
	放射線治療					松　本
内科	循環器	永　瀬 藤　田	永　瀬 藤　田	石　川	永　瀬 石　川	石　川 藤　田
	消化器	橋　永（第2・4） 得　丸（第1・3・5）	橋　永	得　丸	橋　永 得　丸	橋　永
	血　液	卯　野	卯　野	田　部	卯　野	田　部
	内分泌	加　島		森		白　石
	呼吸器					橋　本
	腎　臓	福　田	山　崎（第1）			工　藤
午後外来	循環器	高　倉 (13:00)				
	肝臓外来		寺　尾 (14:00)			
外科	新患・外来	佐々木 白　坂	武　内	休　診	武　内 天　野	佐々木 白　坂
総合診療	新患・外来	秦	秦	秦	秦	秦

※医師の都合により変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

面会についてのお願い

面会時間（一般病棟）　11時～20時
（ICU／CCU）11時～20時(10～15分程度)

面会時はナースステーションにて面会カードに記入し、許可証を受け取ってください。許可証は携帯し、お帰りの際に返却してください。



南海医療センター
院長　森本 章生

いよいよ念願でありました新病院の建設が始まりました。平成29年9月13日に起工式を執り行い、現在基礎の工事が着々と進んでいるところですが、新病院は免震構造で計画しており、その基礎工事に約1年かかるそうです。従って、建物の形が見えてくるのはまだまだ先のこととなります。新病院のコンセプトとして“急性期医療を担う地域の中核病院”、“県南の災害拠点病院”を掲げ、これまで当院が展開してきた医療を引き続き行うとともに、災害時に診療を継続できる機能を有する病院を目指しています。その1として免震構造を選択しました。その2として屋上にヘリポートを設置する予定です。その3は診療部門や主要な機器を2階以上に置くことにより、上記1および2と合わせて、来るべき“南海トラフ”での大地震および大津波の時に災害拠点病院としての役割を果たせるよう計画しております。

佐伯の地域医療を維持すべく協力して進んでいければと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

起工式　平成29年9月13日　　平成30年1月31日 状況

JCHO（ジェイコー）
南海医療センター
TEL 0972-22-0547(代表)
https://nankai.jcho.go.jp/

第４回

JCHO 南海医療センター学術集会が開催されました

平成 30 年２月３日（土）

「南海病院臨床集談会」として 27 年続いてきた学術集会も、「JCHO 南海医療センター学術集会」となり 4 回目です。今年は 11 名による発表と、特別講演に大分大学医学部附属病院　高度救命救急センター長　坂本照夫先生をお招きし、活発な意見交換が行われました。
（写真は左から島村康一郎先生（佐伯市医師会長）、坂本照夫先生、森本院長）

【特別講演】　坂本照夫 先生
「病院前救急診療」

佐伯中央病院　法華津清子 氏
「“耐え難い苦痛”とは何か鎮静カンファレンスから見えてきたもの」

心臓血管外科　岩田 英理子 先生
「九州北部豪雨災害における静脈血栓塞栓症予防活動の今後の課題～一般血管外科の立場から」

循環器内科　藤田 崇史 先生
「SLE が疑われた肺高血圧の一例」

南海老健　藏本　愼 氏
「看護・介護職との協同実施による集団認知訓練を試みて」

栄養サポートチーム　成松　聖 氏
「切除不能残胃癌に対し外科的腸瘻を造設し栄養管理を行った一症例」

看護部　吉田　葵 氏
「A 病棟における看護師のストレス調査」

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科　川野　倫紀 氏
「既往に脊髄小脳変性症・骨髄異形性症候群をもち、腰椎圧迫骨折を呈した症例について」

放射線科診療部　後藤 幸二 氏
「透析患者のスクリーニング CT　施行一年目」

医療安全管理室・看護部医療安全管理委員会　岩木 秀美 氏
「患者間違いゼロを目指して～患者誤認防止シュミレーション研修の取り組み～」

災害救急医療委員会小委員会　深江 裕美 氏
「当院における新しい災害対策への取り組みと今後の課題」

薬剤科　甲斐　章裕 氏
「抗菌薬の適正使用について」

九州北部豪雨での静脈血栓寒栓症予防

（週刊社会保障掲載）

心臓血管外科診療部長　岩 田　英理子

熊本震災では、地震発生後4日目で肺寒栓症の死亡例を認めており、災害時の静脈血栓寒栓症の発生防止は、いかに早く予防の処置を導入できるかによる。

7月5日に発生した九州北部豪雨でも、避難所の開設にあたり7月8日に自治体に静脈血栓寒栓症予防チームの介入の必要性を打診したが、現地へ入る許可の調整に時間を要した。7月9日に医師1名が大分大学医学部附属病院の医療スタッフとして参加したが、この時点では活動にかなり制限を設けられた。7月10日より正式に医師、弾性ストッキングコンダクター、DMAT看護師計3名からなるチームを編成し現地に入ることができ、7月15日まで活動した。

活動では、各避難所を回り、避難者の診察、足関節運動指導、パンフレットを用いての脱水予防、車中泊を避ける等の指導、ハイリスク者への弾性ストッキングの装着、深部静脈血栓症疑いの方の現場での血管エコー検査等を行った。同時にマスコミ各社にご協力いただき、テレビ、新聞、ラジオ等を通じ、広く予防の啓蒙活動も行った。幸い今回は有症状の静脈血栓寒栓症・肺寒栓症の発症は回避できた。

今回現地で活動するにあたってまず困難を感じたのが自治体にわれわれの活動の必要性を理解していただくことと、チームメンバーの現地入りの調整であった。突然の被災により現地が混迷するなか、チームメンバーの安全性の確保・人員の制約も自治体より要求された。最終的にかなりご理解いただけたが「なるべく早期に活動する」ためには自治体との円滑な交渉が今後の課題となった。

われわれの大きな助けとなったのが、現地の看護師・医師会の協力であった。被災者の方から見ればわれわれは部外者である。精神的に局限状態になっている被災者のなかにはパンフレットを受け取ることも拒否される方もいた。その場合、現地の看護師や医師とともに訪れることで被災者とわれわれの距離感が縮まり、介入を受け入れていただけるケースもあった。

また、実際に最前線で被災者と密に接しているのは保健師である。保健師の業務があまりに多く疲弊されているなか、「足が腫れている人を挙げる」ということさえ難しいと言われた。保健師との連携が重要であり、非常時に先立っての保健師等への指導・啓蒙が今後の重要な課題となった。

【チームメンバー】
岩田英理子、溝尻　眞弓〔弾性ストッキングコンダクター〕、
北口　　恵〔DMAT看護師〕

医師紹介

平田 裕二（泌尿器科）

趣味　生涯スポーツとしてソフトバレーボールをやっています。たくさんの方と交流を深め、競技の普及に努めています。機会がありましたら対戦お願いします。

抱負　みなさん、はじめまして。大学の人事異動で南海医療センターに2月に着任しました。当科は3人体制で泌尿器科の診療と多職種の方と一緒に透析室を運営します。泌尿器科は内視鏡手術が中心になります。前立腺肥大症、尿路結石に対する手術器具も充実し、高度な医療が提供できる環境が整いました。腹腔鏡手術に関しても、大学病院と連携して取り組んでいきます。透析医療については、これまでの当院の伝統を継承し発展させていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。